

第3章 平成13年度山口大学構内（吉田構内）の立会調査

1 九田川河川局部改良（平成12年度工事追加分）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 K-9, L-8・9

調査期間 平成13年5月8・9日、6月1日

調査面積 約42 m²

調査結果 この工事は昭和62年度から行われている。今回は平成12年度の追加工事として、長さ約21mについて現地表下約5.5～6.0mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約2mまでが造成土で、以下で地山が検出された。遺構、遺物は検出されなかった。

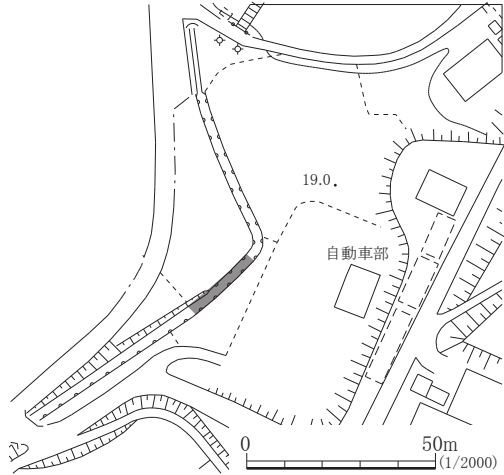


Fig.16 調査区位置図

2 総合研究棟新営（屋外配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 P・Q-18

調査期間 平成13年5月16・22・25日、6月6日

調査面積 約60 m²

調査結果 総合研究棟新営に伴い排水管と柵の新設工事が行われた。掘削深度は管路が80～145cm、柵が190～212cmである。調査区西部では、現地表下約45cm以下でオリブ黄色シルト等の地山を検出した。一方、調査区中央部では同約93cm以下、東部では同67～109cm以下で砂礫・粘土層の河川埋土を検出した。この河川から遺物は出土しなかったが、周辺の既往の調査から縄文時代の河川である可能性がある。

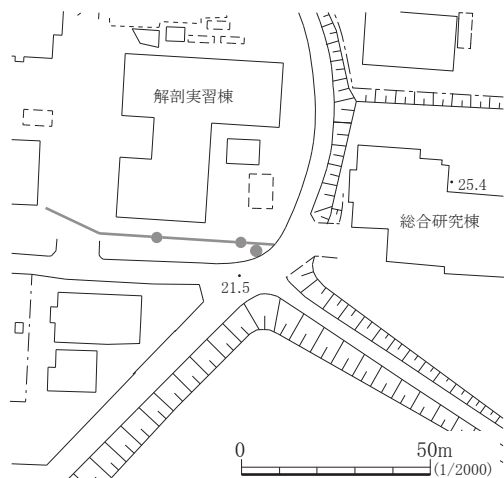


Fig.17 調査区位置図

3 理学部改修1期（屋外配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-18～20, N-19～21, O-19

調査期間 平成13年7月5・17日、8月24・27日、9月10・18・19日、10月21日

調査面積 約76㎡

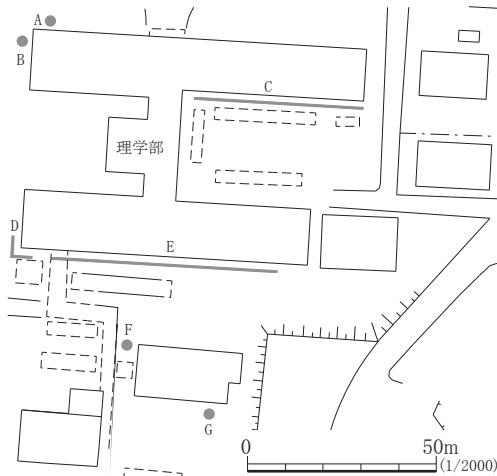


Fig.18 調査区位置図

調査結果 工事に伴い、A～G地点で調査を行った。A～C地点では現地地表下30～120cmまで掘削が行われ、同70cm以下で部分的に地山を確認した。D地点・E地点西側、F地点では現地地表下約100cmで黄灰・黄褐色シルトの地山を確認した。G地点では、現地地表下約30cmで黄灰色の地山を確認した。いずれの地点でも遺構・遺物は検出できなかった。

4 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-8

調査期間 平成13年8月17・21日、9月25日、10月1・2・23・31日、11月16日

調査面積 約96㎡



Fig.19 調査区位置図

調査結果 平成13年度の工事では、長さ約50mについて現地地表下約5.5～6.0mまで掘削が行われた。調査の結果、現地地表下約2mまでが造成土で、以下で地山が検出された。遺構、遺物は検出されなかった。

5 基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 I - 14・15, J・L - 15, M -15, N - 16, Q - 17・19, R - 17・19, S・T・U・V - 17

調査期間 平成13年12月14・17・19・20日、2月27・28日

調査面積 約15.4㎡

調査結果 吉田地区基幹環境整備の一環として、バス停から埋蔵文化財資料館に至る道路、総合研究棟から家畜病院に至る道路、R I 実験研究施設から東門に至る道路の18箇所に外灯が新設されることになった。A・B、E～R地点は外灯の基礎部分で平面形約90cm×90cm、C・D地点も上記とほぼ同規模で管路接続に伴い掘削が行われた。

A～I地点はバス停から埋蔵文化財資料館の間の調査地点である。A地点は、現地表下約110cmまでが造成土・水田耕土で、以下約110～140cmで灰色（7.5Y4/1）粘土等の河川埋土を検出した。B地点は、現地表下約115cmまでが造成土・水田耕土で、約115cm以下ではオリーブ灰色（7.5Y6/3）シルトの地山を検出した。C・D地点は現地表下約100cmまで掘削を行ったが、全て造成土の範囲内であった。E地点は、現地表下約78cmまでが造成土・水田耕土・水田床土で、78cm以下では灰色（10Y5/1）シルトの地山を検出した。F地点は、現地表下約50cmまでが造成土・水田耕土・水田床土で、約50～60cmで河川埋土の可能性のある暗緑灰色（7.5GY4/1）粘土、約60cm以下で青灰色（10BG5/1）シルトの地山を検出した。G地点は現地表下約100cmまでが造成土・水田耕土・水田床土で、約

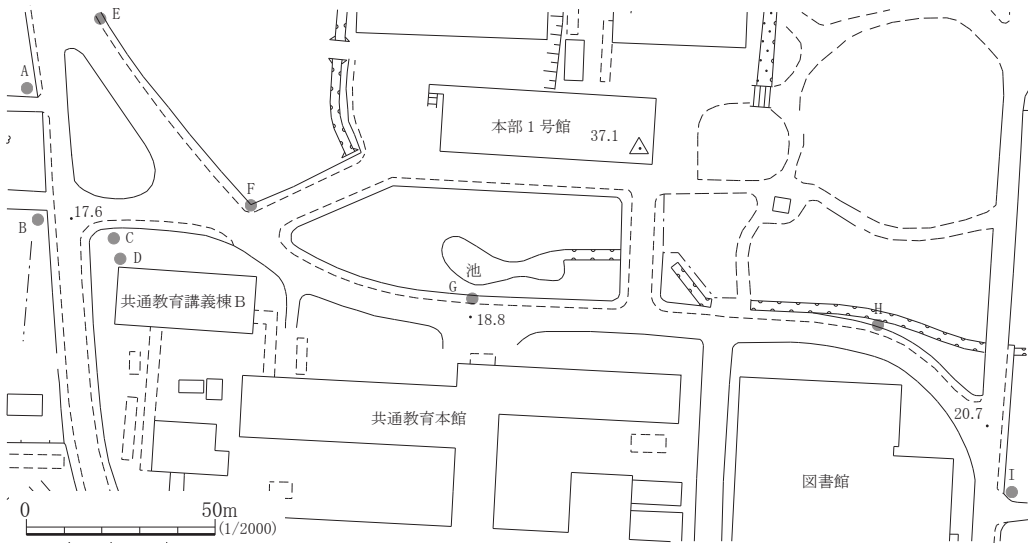


Fig.20 調査区位置図①

100 ～ 136 cm で河川埋土の可能性がある黒色 (7.5YR2/1) シルトを検出した。H 地点は、現地地表下約 54 cm までが造成土で、約 54 cm 以下では灰オリーブ色 (5Y6/2) シルトの地山を検出した。I 地点は、現地地表下約 90 cm までが造成土で、約 90 ～ 100 cm で水田耕土、約 100 ～ 126 cm で遺物包含層か河川埋土の可能性がある灰色 (5Y4/1) シルト、約 126 cm 以下でオリーブ灰色 (5Y6/2) シルトの地山を検出した。

J ～ O 地点は R I 実験研究施設から東門の間の調査地点である。J 地点は、現地地表下約 105 cm までが造成土・水田耕土・水田床土で、約 105 ～ 125 cm で遺物包含層の可能性がある暗オリーブ灰色 (5GY3/1) 粘質土、約 125 cm 以下で地山である明黄褐色 (10YR7/6) 粘質土を検出した。

K ・ L ・ M 地点では、造成土・水田耕土・水田床土の直下、現地地表下約 78 cm (K 地点) ・約 101 cm (L 地点) ・約 111 cm (M 地点) で河川埋土を検出した。N 地点では、現地地表下約 148 cm で水田耕土を検出した。O 地点は、現地地表下約 60 cm までが造成土で、約 62 cm 以下では黄色 (2.5Y8/6) シルトの地山を検出した。

P ～ R 地点は総合研究棟から家畜病院の間の調査地点である。いずれも削平を受けており、P 地点で現地地表下約 46 cm、Q 地点で同約 35 cm、R 地点で同約 50 cm で地山を検出し、その間の埋土は全て造成土であった。

今回、いずれの地点からも遺物は出土しなかったが、A ・ F ・ G ・ I ・ J ～ M 地点周辺では、今後も埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

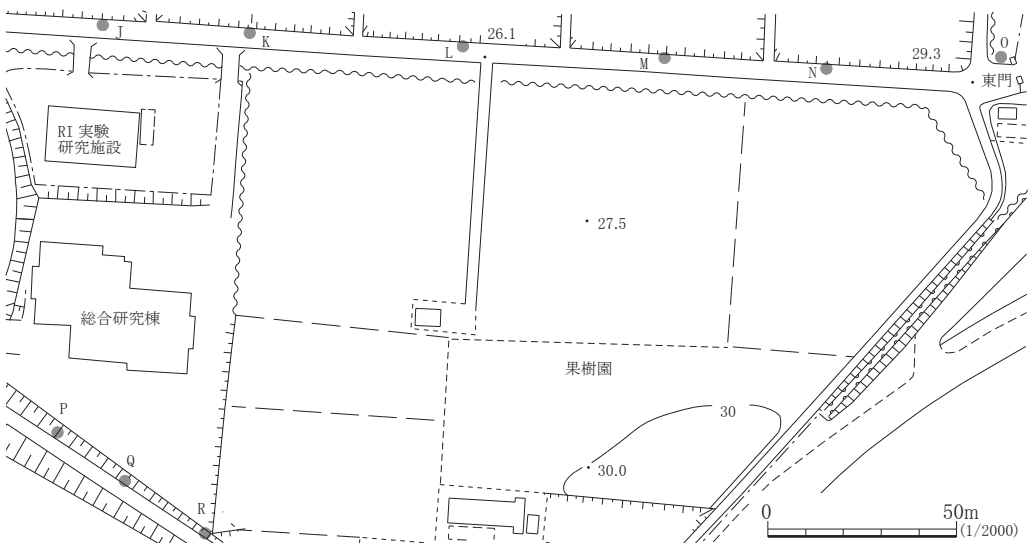


Fig.21 調査区位置図②

6 理学部改修 2 期（ポンプ室配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-19

調査期間 平成13年12月21日

調査面積 約11㎡

調査結果 掘削工事はポンプ室への配管布設に伴い、掘削幅約70cm、長さ約16m、深さ約80cmの規模で行われた。調査の結果、調査区東部では、現地表下約65cmで水田耕土を検出した。一方、調査区西部では造成土を検出するにとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。



Fig.22 調査区位置図

7 理学部改修 2 期（自転車置場・渡り廊下屋根新設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M・N-20

調査期間 平成13年12月25日，平成14年1月7日

調査面積 約196㎡

調査結果 自転車置場及び人文学部・理学部間の渡り廊下屋根の新設工事に伴い、掘削工事が行われた。渡り廊下新設箇所の掘削深度は約60cmである。東部では、現地表下約23cmでにぶい褐色（7.5YR5/4）シルトの地山を検出したが、西部では水田耕土を検出するにとどまった。自転車置場新設箇所の掘削深度は約70cmである。西部では現地表下約30cmで明黄褐色（2.5Y7/6）シルトの地山を検出したが、東部は造成土の範囲内であった。

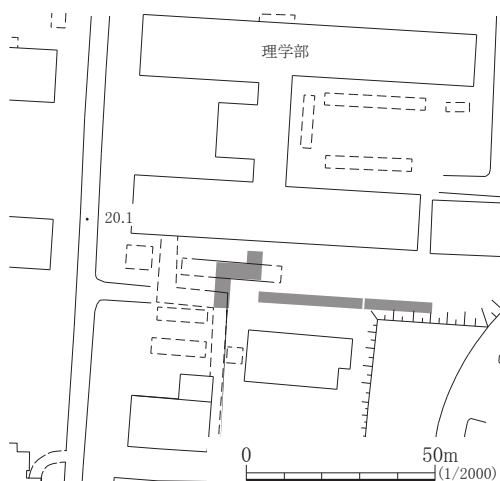


Fig.23 調査区位置図

8 第1学生食堂トイレ改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 I・J-19

調査期間 平成14年2月18日

調査面積 約6m²

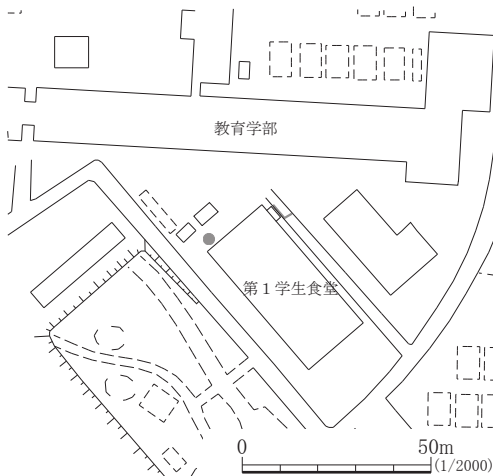


Fig.24 調査区位置図

調査結果 第1学生食堂のトイレ改修に伴う給水管・排水管（食堂東側）、量水器（食堂西側）新設工事に伴い、立会調査を行った。食堂東側では現地表下約60cm、量水器新設箇所では約50cmまで掘削が行われたが、いずれも造成土の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。

9 経済学部校舎改修（プレハブ校舎配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-21

調査期間 平成14年2月21日

調査面積 約10m²



Fig.25 調査区位置図

調査結果 第2章で報告した経済学部プレハブ校舎に新設する給排水管工事を対象に立会調査を行った。工事では現地表下約60cmまで掘削を行ったが、いずれも造成土の範囲内であり、埋蔵文化財に支障はなかった。